

平成 19 年 11 月 8 日

11月定例所長会見における高橋所長挨拶内容

○ 所長の高橋でございます。本日、私からは4点申し上げます。

○ まずは、「発電所の点検状況」についてです。

当発電所では、原子炉建屋内の重要設備をはじめ、原子炉内部などの一つひとつの設備について、詳細に点検・調査を行い、その健全性を確認しているところです。

このうち炉内点検につきましては、先行した1号機に続き、11月3日より2号機の点検を開始しており、11月14日からは5号機の点検開始を予定しております。7号機につきましては、原子炉ウェルライナーからの水漏れや、制御棒の分離事象などの発生により、当初の点検工程が遅れております。現在、原子炉ウェルの点検を実施しておりますが、昨日、漏えいにつながる微小な傷を2箇所確認しております。また、引き抜くことができなかった制御棒につきましては、駆動機構部分を取り外して分解点検を実施いたしました。原因の特定につながるような損傷等は確認されておられません。

しかしながら、全体的には、年度内の全号機点検完了を目標としてスケジュール通りに進んでいるところです。また、タービンの内部状況確認につきましても、作業準備の整ったプラントから順次実施しており、年内にはひと通りの点検を終了する予定です。

今後も着実に点検を進めるとともに、何か新たな事象が発生した場合には、立ち止まり的確な対応を行ってまいります。

○ 2点目は、「地震に関連する不適合のとりまとめ」についてです。

当発電所で発生、発見された全ての不適合については、マニュアルに基づく報告、処理を行うとともに、必要な改善活動を行うなどの的確管理を実践しております。

このうち新潟県中越沖地震に関連する不適合につきましては、軽微なものまで全て含めると約3,000件確認されており、これまで、毎週定期的に報告してまいりました。

このたび、地震関連の不適合について、全体傾向などのとりまとめを行いました。当社で定めた不適合管理のグレード別にみると、約9割強がC・Dグレードであるとともに、現象としては、「破損・変形」、「ひび」、「水漏れ」が8割弱を占めています。また、原子炉建屋内などの重要設備に大きな損傷はありませんが、今後も的確な点検と不適合管理を実施してまいります。

なお、現在、新たに発見される地震関連の不適合は減少しておりますが、今後も毎月の不適合管理報告の中で定期的にお知らせするとともに、必要な復旧や是正処置を講じてまいります。

- 3点目は、「ふれあい訪問の実施」についてです。

当発電所では、今月下旬から来月中旬にかけて約3週間の予定で、地域の方々の声を社員が直接お聴きする訪問活動を実施いたします。

この活動は、これまでも年2回行っているものですが、通算で5回目となる今回の訪問では、地震により発生した変圧器の火災や微量の放射性物質漏えいなど、地域の皆さまにご心配をおかけした事象について、改めてご説明させていただくことも大切なことと思っております。

私自身も、本部長の武黒とともに「ふれあい訪問」に参加し、地域の皆さまのご意見やご要望をお聴きしたいと思います。また、皆さまの声につきましては、本年4月に設置した「地域の声委員会」などを通じて、発電所の業務運営に的確かつ迅速に反映してまいります。

- 4点目は、「発電所のご視察」についてです。

当発電所では、地震発生以降、地域や首都圏、あるいは、原子力立地市町村からも多くの方々にご視察をいただき、発電所の現状についての理解活動に取り組んでまいりました。

防護上の観点からの制約もありますが、今後も発電所のご視察について積極的にご案内していきたいと考えております。

- 最後になりますが、当発電所は、地震直後の被災状況の把握に苦心した状態を抜け出し、やるべきことが明確になりつつある状況になったと考えております。現在では、設備の詳細な点検や周辺地域の地質調査など、目の前の課題を計画的に実施しているところですが、今後も復旧に向けて着実に取り組んでまいり所存です。

まだまだ道のりは大変険しいと思いますが、地域の皆さまからのご理解をいただきながら、災害に強い、より安全で安心な発電所の構築に向け、全力を尽くしてまいります。

以上

添付)

- ・ 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX
- ・ プレス公表（運転保守状況）

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成19年11月)

平成19年11月8日

① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況												補足説明
			12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第15回定期検査中 停止期間:H19.5.4~	第14回 H17.6.14~H18.5.30 停止期間 H17.6.14 ~ H18.4.30 (321日) (原子炉起動H18.4.26)	第15回定期検による停止↓												
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 停止期間:H19.2.19~	第11回 H17.9.3~H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	↓第12回定期検による停止 原子炉自動停止↑												
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 停止期間:H19.9.19~	第9回 H18.5.12~H18.9.15 停止期間 H18.5.12 ~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定期検による停止↓ 原子炉自動停止↑												
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	停止中 停止期間:H19.7.16~	第9回 H18.4.9~H19.1.11 停止期間 H18.4.9 ~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	↓第9回定期検による停止 原子炉自動停止↑												
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第12回定期検査中 停止期間:H18.11.24~	第11回 H17.7.4~H17.11.2 停止期間 H17.7.4 ~ H17.10.8 (97日) (原子炉起動H17.10.8)	第12回定期検による停止↓												
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	第8回定期検査中 停止期間:H19.5.24~	第7回 H17.12.10~H18.5.12 停止期間 H17.12.10 ~ H18.4.13 (125日) (原子炉起動H18.4.10)	第8回定期検による停止↓ 原子炉手動停止↑												
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	停止中 停止期間:H19.7.16~	第7回 H18.8.23~H19.1.11 停止期間 H18.8.23 ~ H18.12.5 (105日) (原子炉起動H18.12.2)	↓第7回定期検による停止 原子炉自動停止↑												

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

② 発電所設備利用率(%) (10月末現在)

10月	0.0%
19年度累計	27.6%
運転開始後累計	75.3%

③ 発電所発電電力量(万kWh) (10月末現在)

10月	0
19年度累計	1,164,943
運転開始後累計	80,191,836

④ ドラム缶発生量(本) (H19年度第2四半期)

当期発生本数	61
貯蔵庫累積貯蔵本数	22,391
貯蔵庫保管容量	30,000

⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (H19年度第2四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	12,372
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

⑥ 構内従業員データ(人) (11月1日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	813	2,426	61%
	刈羽村	80	245	6%
	その他	78	708	15%
	小計	971	3,379	81%
県外		120	880	19%
合計		1,091	4,259	—
		5,350		100%
協力企業社数(社)		522		

※「比率」について端数処理の関係で数値と計が合わない場合がある。

⑦ 来客情報(人) (10月末現在)

	10月	年度累計
地元	679	5,963
県内	724	8,345
県外	2,199	10,537
国外	39	197
合計	3,641	25,042

⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
11月26日~12月16日	ふれあい訪問
11月23日	き・な・せ 収穫祭(き・な・せ)
12月8・9日	第125回名画鑑賞会(柏崎エネルギーホール)
12月8・9日	科学特捜隊「クリスマスサイエンスショー」(サービスホール)
12月13日	次回定例所長会見予定
12月13・14日	切り絵教室(柏崎エネルギーホール)
12月15日	切り絵教室(き・な・せ)
12月22日	そばうち体験教室(き・な・せ)

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	9月11日	1号機	原子炉複合建屋（非管理区域）における潤滑油漏れについて（区分Ⅲ）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月10日、原子炉複合建屋3階空調機室（非管理区域）において、2台ある冷凍機のうち1台（A）の点検を行うために現場に到着した協力企業作業員が、もう1台（B）の銅チューブの接続部から潤滑油が漏れていることを発見した。 ・ 漏れた油は当該冷凍機（B）の下に設置している油受けで全て回収しており、当該冷凍機（B）の運転を止めたところ、油漏れは停止した。 ・ 漏れた油の量は約100リットルで、放射性物質を含んでおらず、本事象による外部への放射能の影響はない。なお、本事象において、当該冷凍機（B）で冷媒として使用していたオゾン層への影響が小さい代替フロンガスが約250キログラム漏出したことを確認している。 ・ 同日、銅チューブの取り替えを実施し、当該冷凍機（B）を復旧。その後、各号機にある冷凍機の類似箇所についても、漏えいがないことを確認した。 ・ 調査したところ、当該銅チューブの接続部にき裂を確認した。原因は、前回の定期検査における当該銅チューブ接続部のナット締め付け時に、締め付け過ぎによって接続部にき裂が生じ、その後の冷凍機の連続運転によってき裂が進展したものと推定。 ・ 今後、当該接続部が締め付け過ぎにならないよう、手締めでのナットの回転が固くなったところから1回転以内で締め付ける旨を要領書に明記することとした。
②	10月18日	5号機	原子炉建屋におけるけが人の発生について（区分Ⅲ）	—